

第21回群馬小児がん研究会抄録

日 時：平成 22 年 8 月 20 日 (金)
会 場：前橋商工会議所会館 3 階 Lily の間
当番幹事：小川千登世 (聖路加国際病院 小児科)

〈特別講演〉

座長：小川千登世 (聖路加国際病院 小児科)

「小児の在宅ケア」

押川真喜子 (聖路加国際病院訪問看護
ステーション 所長)

〈一般演題〉

セッション 1

座長：金澤 崇 (群馬大院・医・小児生体防御学)

1. 急性リンパ性白血病化学療法中に発症した十二指腸穿孔の 1 例

大竹紗弥香, 高橋 篤, 桑野博行
(群馬大院・医・病態総合外科学)
原 勇介, 柴 徳生, 奥野はるな
石毛 崇, 金澤 崇, 荒川 浩一
(同 小児科)

症例は 14 歳女児. 4 月～急性リンパ性白血病にて化学療法を施行. 5 月下旬 Hb5.1mg/dl に突然低下. 翌日～腹痛が出現. 3 日後に黒色便が出現し, 腹部 CT を撮影したところ free air と十二指腸球部の壁菲薄化が認められ, 十二指腸穿孔が疑われた. 直ちに絶飲食, 胃管挿入, PPI・抗生剤投与を施行. 約 1 ヶ月後上部消化管内視鏡検査を施行したところ, 十二指腸球部に多数の潰瘍瘢痕が認められた. 経口摂取は可能と判断し, 翌日～開始した. 現在腹部症状は認めず, 原疾患の治療を継続中である.

本症例では保存療法にて治癒し得たが, 化学療法中には免疫低下や創傷治癒の遷延が予想される為十二指腸穿孔治療中は嚴重なる観察が必要不可欠である.

2. 多発造骨性腫瘍の 1 乳児例

鈴木 信, 畑中 政博, 藤野 順子
田原 和典, 石丸 由紀, 池田 均
(獨協医大越谷病院 小児外科)

症例は 4 ヶ月男児, 在胎 39 週 4 日, 体重 2,920g にて経腔分娩. 生後より鼻閉症状強く近医受診し鼻炎治療を受けるも改善なく当院耳鼻科受診. 内視鏡で鼻腔内を観察すると鼻腔内に突出する腫瘤状病変を認めたため髄膜瘤等を疑い頭部 CT を施行. 左鼻腔内を占拠する腫瘤を認め, 頭蓋底との境界が不明瞭であったため当院脳神経外科入院となったが, 全身検索にて胸壁より発生する腫瘤も認めたため, 更なる全身検索目的に当科紹介となった.

頭部 CT にて鼻腔～篩骨洞内に粗大石灰化を伴う腫瘤状病変を認め, さらに胸部 CT では左第 8 肋骨から連続する胸腔内へ突出する腫瘤を認め, 両者は同一の CT 値を呈した. 頭部 MRI 検査では鼻腔～篩骨洞内に占拠病変が認められ, 内部は T1 強調画像にて高信号, T2 強調画像にて低～高信号が不均一に混在していた. 以上の所見より多発骨軟部良性腫瘍を疑い組織診断目的に鼻腔腫瘍生検および左第 8 肋骨腫瘍亜全摘術を施行し間葉性過誤腫との診断を得た. 過誤腫の鼻腔・胸壁の同時発生の報告はなく, 本症例の病理学的検討と画像所見より本疾患の病態の考察を行う.

3. 維持療法中にサイトメガロウイルス網膜炎を発症した急性リンパ性白血病の 1 例

佐野 弘純, 塩澤 裕介, 朴 明子
外松 学, 林 泰秀
(群馬県立小児医療センター 血液腫瘍科)
金澤 崇 (群馬大院・医・小児科学)

【緒言】 サイトメガロウイルス (CMV) による網膜炎は近年, 移植や HIV 感染の増加に伴い報告例が増えている. しかし, 急性リンパ性白血病 (ALL) の維持療法中は CMV 網膜炎を合併することは稀である. 維持療法中の CMV 初感染後に網膜炎を発症した ALL の 1 例を経験したため報告する. 【症例】 7 歳男児. T 細胞性 ALL